

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 減債基金の真価   |
| Sub Title        |   |
| Author           | 星野, 勉三  |
| Publisher        | 三田学会  |
| Publication year | 1909  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.71- 80   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 論説  |
| Genre            | Journal Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0071">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0071</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

用の長物である。否、かゝる概念が存する所から、迷信者流によつて靈妙不可思議の働を爲す所のものと曲解せられ、精神感應も、天眼通、天耳通も此の潜在意識の妙用であるとして考へらるゝに至つたのである。洵に笑ふべきの極である。勿論吾々としても、ある種類の精神感應、ある種類の天眼通、天耳通の存することを否定するものでない。然し此等は決して心靈の研究者が考へるやうな性質のものではない。蓋し、ある種類の精神感應は日々に行はれてゐるもので、吾々が言語により、舉止によつて互に思想感情を通じつゝあるのがそれである。かう云ふもの以外に何にも不思議の現象が存して居る譯ではない。若しありとすれば、唯幻覺ハルシネーションに過ぎないのである。それから天眼通、天耳通と云ふやうなものも催眠状態などに入ると、ゾントの所謂統覺中樞の働が弛んで、感覺中樞の亢奮を起す所から時に現はれて來る現象であつて、常人の眼力、耳力の達せない所の物を視聽きすることが出来るのである。が何にも不思議なものではない。然かし世に不思議なものがありとすれば、意識生活其物である。否、意識生活によつて燃ゆる所の *Il y a toujours* の生の火こそ、恐らく吾々には永遠の神秘であらう。

## 減債基金の眞價

星野 勉 三

夫れ公債の償還は單に理論上より云へば必ずしも必要にあらざり而して過大ならざる公債の存在は却て國民經濟を利すること大なり何となれば此の如き場合には公債は放資の目的物となり以て資本蓄積の機會を興ふればなり又公債の償還は只に不必要なるのみならず却て有害なる場合なきにしもあらず即ち國家の財政に餘裕なく爲めに已むを得ず高利の公債を募集して舊公債を償還する場合の如き又は重要な國費を節約し國務の遂行を妨害して迄も強て償還を行ふが如き又は強て之を行はんが爲めに租税を増徴して國民の負擔を大に増加するが如き又は國民經濟に資本の剩餘あるに際して之を行ひ爲めに國民は過多の資本を利用する方法を發見すること能はず却て投機の如き不健全なる放資を促す場合等の如き之れなり。

夫れ此の如く公債の償還は必ずしも必要にあらざり又却て有害なる場合ありと雖

も此の如きは極めて僅少の例外的場合にして我國の如く國債の増加激烈にして日清戦争以前に二億六千萬圓以上なりしものは日露戦争以前には二倍以上にして五億六千萬圓となり又本年に於ては四倍して廿二億餘圓となれり故に此の如き多額の負債を有する國家に對しては以上述べたるが如き樂觀的例外説は決して應用し得べきものにわらずされば我政府は日露戦争の終了と共に減債基金を設置して強制的に其國債を償還する方法を採りしが當時民間の輿論は大に之を非とし有力なる新聞雜誌の之を唱道するものありしかば國民は之に附和雷同し此制度を以て愚策となし官吏を以て勘定を解せざる愚物となすに至れり。減債基金の制度は今より約二百年以前より行はれたる所にして人皆其成績を以て失敗となし財政學の教科書は盡く之を惡制度となすに一致せり然りと雖も此の如きは單純なる教科書論としては或は可ならん然れども實際の政策は必ずしも三五百頁の教科書の教ふる所を以て直に之を斷ず可きにわらず特に財政學は其前提として理想的の國家を置くものにして人民は皆よく國家の利益を慮り又好んで國法に服従し其一度發布せる律令は必ず之を勵行するに勉むるが如き模

範的國家を前提とするものなれば財政學の教ゆる議論は必ずしも直ちに之を移して以て實際の政策を決するの標準となす可からず故に減債基金制度の如きも財政學の教科書は之を排斥すと雖も是果して實際に於てかく價值なきものなるやは大に疑なき能はざるなり。

抑も公債償還の方法には二種の大別あり自由償還及び強制的償還之れなり自由償還とは公債募集の當時償還の方法又は期限等に關する契約なり國家の好都合の時を見計ひて適當なる額丈け償還するものなり是れ理論上最良の方法にして國家は之によりて財政の都合と國民經濟の都合とを見計ひ其最も好都合なる時に償還することを得るなり然れども借金の返濟は常に多少の苦痛を意味するが故に公債も其償還にして自由ならんには如何なる國家と雖も之を怠るに已むを得ざる所なりとす故に嚴格に償還を實行せんと欲せば必ず之を強制せざる可からざるなり而して其方法は種々ありと雖も其主なるものは公債募集の當時債權者に對して委細其償還の條件を約し又甚だしきに至りては其償還資金の財源をも約するものあり是れ信用の低き國家に行はるゝ所なり然れども其寬なるもの

に至りては只償還期限のみを約し其他の委細の條件特に毎年償還す可き金額の如きは之を債権者と契約せざるものあり而して我國々債の償還條件の如きは後者に屬するものにして尤も減債基金を使用して毎年若干の還償をなす可き規定ありと雖も之れ國家が債権者と約せるにわらずして只償還を勵行せんが爲めに自己を束縛するの規定たるに過ぎざるなり。

減債基金制度を實行せる中に就きて最も有名なるものは英人ドクトルプライスの創意にかゝるものにして一七八六年ピットによりて實行せられたるものなり當時英國は米國獨立戰爭に關係して公債の増加を來たせしかば之が償還に勉めたるに皆失敗に歸せしがドクトルプライス出で重利法によりて數十年間に巨額の公債を盡く皆償還するの策を提出せしかば國民擧つて之に贊成しピットによりて實行せらるゝに至れり。

此制度によれば先づ減債基金を作り之を以て法人となし一般會計より毎年一百万ポンドを之に繰り入れたり而して基金は之を以て公債證書を買ひ入れ其此の如くして買ひ入れたる證書は之を破棄せずして之を基金の所有となし之に對し

て國庫より支拂はるゝ、利子は又基金の所有となり而して基金は又此取得を以て公債證書を買ひ入るゝが故に基金は重利法によりて増加し英國の國債は五十年以内に於て盡く償還せらるゝ、計畫なり又プライスの説によれば毎年一分づゝ元金を償却すれば此重利法に依るときは三分利付公債は四十七年間に四分利付は四十二年間に又五分利付は三十七年間に悉皆償還せらる可しと云へり又紀元元年に一片を五分の單利にて貸付くればプライスの時代に於ては七志六片即ち九十倍となりたるならん又重利ならんには地球大の金塊數個となりたるならんと云へり然れども此の如きは畢竟空想にしてプライスは重利の効果を過重視せるの嫌なきにわらず而して此思想を根據とせる減債基金制度は勿論當初豫想せる程の効果を奏すること能はざりしと雖も又此基金あるが爲めに英國の國債市價は騰貴し又此制度を摸倣せる佛國に於て同一の現象を生ぜりと云ふ。

英國の制度は一八二九年に設定せしが卅二年の後廢棄せられ佛國の制度は一八一六年に起り一八四八年即ち卅二年後に停止せられ十一年後即ち一八五九年に再興し一年の後停止し六年の後三度之を起し五ヶ年の後即ち一八七一年に停止

せられたり又奥國は一八一七年に之を設定し十三年の後即ち一八三〇年に縮少し二十九年の後即ち一八五九年に之を廢止せり。

此の如く減債基金制度は皆中途にて廢棄せられ未だ嘗て完全に其目的を達したるものなし(但し小國が小額の公債に對して設定したる場合には完全に當初の目的を達せる例少からず)と雖も是れ當然のことにして即ち五六十年に涉りて之を實行するが如きは殆ど不可能の業なりと云ふ可し之を英國に就て見るも同國に於ては最初之を嚴格に勵行せしかば一方に於ては基金は益々増加せしが之に反して他方に於ては租税の負擔は全く減ぜず漸く國民の不平を漏らすものあるに至りしにたまゝ内閣の更迭と共に我政府は國依の歡心を得るに急にして或は基金の所有する公債を破棄して國庫の負擔を減じ或は遂に全然基金を廢するに至れり而して假令此の如き内閣の更迭なしとするも數十年に涉りて滞りなく豫定の減債を勵行するが如きは殆ど不可能にして此間には或は不作あらん或は恐慄あらん或は又戰爭なきにしもあらず此の如き場合には或は租税を輕減するの必要ある可く又は新債を募集するの要も生ぜん或は基金の繰入れを廢して之を

臨時費に流用するの要なしとも云ふ可からず此の如きは尙ほ恕す可しとす可しとするも而も甚だしきに至りては基金の所有する公債證書を破棄し又は基金制度を全然廢止するものあり是れ只に前掲の英國のみならず此制度を採用せる諸國の等しく經驗せる所なり。

茲に於てか後來の學者は皆減債基金を非とするに一致せり而して其所論大に當を得たるものありと雖も亦甚だ感服し難き迂遠なる説なしとせず即ち曰く(一)プライスの所謂重利的増加は到底實現し得可きにあらず故に減債基金制度は不可能なることを夢みつゝあるものなりと夫れ然り基金は論者の云ふが如く常に滞りなく重利法によりて増加し能はざることを敢て疑を容れずと雖も而も此重利法によれば國債利子は常に償還に使用す可く強制せらるゝが故に單利に依るよりは速かに償還を遂行し得ることは又明かならん(二)又償還の資金は結局租税支拂人の負擔する所なれば基金制度あればとて特別なる利益あることなしとの非難ありと雖も是只此制度が利益なしと云ふのみにして敢て有害なることを證明するものにあらざるが故に又以て此制度の價值を輕重するに足らざるなり(三)又減

債基金は當初の豫定通り繼續したる例なしとて其の價值を疑ふものありと雖も此の如きは決して此制度の缺點にあらざり即ち假令何年たりとも此制度が繼續したるだけ效用ありたるにあらざり或は此の如き場合には此制度が中途にて倒れたることを非難せず寧ろ其中途迄繼續せることを賞す可きなり(四)又此制度を勵行すれば其國家歳入の不足なるに際しては一方に基金に於ては資産を蓄積しながら他方に於ては却て借金をなすの矛盾せる結果に陥る可しと是甚だ有力なる非難なりと雖も此の如きは此制度を解釋すること嚴格に失するより來る弊に過ぎず若し夫れ一方に基金を有しながら却て高利なる新債を募集するが如き必要生ぜんには一時基金の繰入れを停止し其繰入る可き金額を之に流用すれば可なるにあらざり或は杓子定規に基金の繰入れを勵行して損失を招くが如きは却て基金制度の本望にあらざる可し。

以上は主としてプライスマットトの基金制度に付て贊否説を述べたるものなれども其他多少之と異なる減債基金制度より即ち一は普魯西の制度にして之に依れば十ヶ年を一期として基金の所有する證書を破棄するが故に前掲の制度の如

く一方には豊富なる基金あり他方には租税の負擔に苦しむ國民あるが如き奇觀を呈せず又基金制度は豫定の年限だけ繼續せずとの非難をも免れん又他は英人ワルポールの發明せる制度にして一七一五年の設定にかゝり此種の制度中最古のものなり當時英國にては特別なる租税を以て公債償還利拂の財源となせしがワルポールは之を以て三ツの基金を作り而して翌一七一六年公債借替のことあるや此舉によりて節約し得たる所を以て又第四の基金を作り之を *Sinking-Fund* と稱せり此方法が前のプライスマットトの方法と異なる所は買ひ上げたる公債は之を破棄するにあり而して此方法は現今歐洲に於てはウエルテンベルヒに於て實行せられつゝあり。

之に依て觀れば減債基金制度は決して重利の計算上の利益あるものにあらざり然れども之あるが爲めに公債償還に關する事項は之を等閑に付せられず爲政家は常に公債の償還を怠らざるに至らん此の如きは特に二大政黨ありて互に主張を異にし内閣の交迭と共に政策を變更することある國家又は軍人等の勢力強大にして國庫に剩餘金あらば直に之を自己の用途に使用せんと計るが如き國家に於

ては特に主要のことなりとす而して我國の如く將來大に雄飛するが爲に或は公債募集の懸念ある國家に於ては其の償還は目下の急務にして之を遂行せんと欲せば勢ひ之を強制せざるを得ざるなり然れども余輩は敢て減債基金制度を以て國債償還の最良方法なりと云ふにあらざれども此制度は所謂識者の嘲笑するが如き愚策にあらざりて却て重大なる效用あるを信ずるなり。

## 社會學上に於ける同種意識説と 模倣説との比較

田 中 一 貞

近世の社會に關する諸科學が漸く心理學に接近し來れるは何人も否む能はざる事實にして隨て或意義に於ては社會的諸科學の基礎とも云ふべき社會學其者の如きも漸く其生物學的臭味を脱して其立脚點を心理學上に求むるに至れり。社會學の鼻祖オーギュスト・コムトは其有名なる「科學の段階」ヒエラキョウオフサイエンセスに於て數學を以て最も根本的なる科學となし次は天文學其次は物理學化學生物學社會學と云ふ順序になし、社會學を以て最後の科學にして且最も直接に生物學を基礎とするものなる事を主張せり。以來社會を以て直に一の生物となし専ら生物學の原則を社會學に應用する事一般の流行となり、スペンサーの如きは「社會は一の動物なり」と公言し、シャフレー、リ、エンフェルド等の諸學者は更に大膽に社會即動物論を唱へ社會解剖學、社會病理學等の語をさへ見るに至れり。然れども此種の大膽なる學説